

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		*	*	*
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は当市最大の夏祭りが行われ、周年記念であったことや当商店街区域でのフリーWi-Fiの運用開始なども起因して、前年を5万人以上も上回る人出があり、飲食、交通関連などが売上を伸ばしたほか、物販でも前年以上の売上となった店舗が多くみられた。8月25日以降は若干低調となったが、全体として好調を維持した。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・東日本大震災の悪夢が薄らいできているためなのか、国内客による売上が増えた。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・ビール類を始めとしてかなりの商材で値上げを行ったが、その影響もあまりみられず、販売量は順調に推移している。また、高額商材の売行きも徐々に勢いを取り戻してきている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は横ばい又は前年割れで推移しているが、高単価商材の売上が好調であったことから、8月は前年を上回る商況となっている。外国人観光客による売上も好調で前年の2倍以上で推移している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・8月に入り来客数の増加が続いている。天候に恵まれたことや外国人観光客の増加が要因であり、今後しばらくはこうした傾向が続く。
		スーパー（店長）	単価の動き	・商品単価が上がり、それに伴い客単価も上昇している。特に付加価値の高い商材の動向が良い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・お盆商戦も含めて、来客数の前年割れが続いているが、少しずつ回復してきている。8月は気温の高い日が続いたことで客単価が上がり、売上は好調であった。ただ、客の様子をみると目的買いが多いなど、節約志向が強く、あまり無駄遣いしない傾向にある。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・全般的に景気はやや良くなっている。ただし、消費が勢いついているわけではない。客と話をしても、これから物をたくさん購入するような時代が訪れるとは考えにくい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・観光客が増えており、それに伴い来客数も増加している。お盆明けからはバイクや自転車で旅行している観光客の来店も増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の発売が相次いでおり、新たな機能を付加した車種も多いため、販売量全体のボリュームアップにつながっている。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・国内メーカーのタイヤの値上げ発表と同時にタイヤの販売量が増加している。夏タイヤだけでなく、冬タイヤも売れており、販売量は前年から50%程度増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・8月は開店と同時に満席になり、午後3時ごろまで満席が続いている。売上も前年比プラス3%とようやく前年を上回るようになった。日中は子ども連れの観光客など、家族客が多く、夕方以降は年齢層の高い客が目立つ。また、外国人客もちらほらとみられる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジア圏からの外国人観光客が引き続き好調に推移している。特に韓国からのゴルフツアー客は前年から15%増加するなど、伸びが大きい。また、国内旅行客やインセンティブ旅行客の利用も堅調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・業界的に繁忙期に入っているため、3か月前よりも動きが良くなっている。ただ、販売量は前年と比べて微増にとどまっている。
	旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・同業他社の様子をもみても、足元の状況が良く、先行受注の見通しも明るいという会社が多いなど、あまり後ろ向きな話は聞かれないため、景気はやや良くなっている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年、8月後半はお盆前と比べて来客数が大きく落ち込む傾向にあるが、今年は落ち込み方が緩やかであり、その分売上が増加している。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・個人客は微増ではあるものの、増加傾向が続いている。外国人観光客も増加の兆しがみられる。	

	商店街（代表者）	単価の動き	・10万円以上の高額商材の動きが弱い。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・北朝鮮問題に対して客が特に反応することもなく、日々同じような雰囲気で購入している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年は北海道新幹線の開業効果で国内観光客が増えたが、今年はその反動で大幅に減少している。外国人観光客は順調に推移しているが、国内観光客が減った分、苦戦している。
	百貨店（担当者）	販売量の動き	・8月になり、気温が極端に低下したこともあり、衣料品を始めとした季節商材の動きが鈍化し、売上が伸び悩んでいる。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・ここ数年、ディスカウントショップに客を取られており、かなり厳しい状況にある。通常8月に売らなければならない低単価商材の需要もディスカウントショップに取られている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・8月に入り前年よりも気温の低い日が続いている。真夏日が7日間少なく、お盆期間の平均気温が約7度も低く、4週目の最高気温も2.4度低くなっている。このため、飲料や日配品などの夏物商材の動きが悪い。来客数もここ数か月と同様に前年比で約1%低下して推移している。ただ、7月と比べれば売上はやや上向き傾向にある。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は前半の天候不順により苦戦している。冷菓や飲料水の販売量が前年から1割程度落ち込んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・お盆期間の天候不良で行楽客の来店は増えたが、気温が低かったことから小容量の飲料水やアイスの売上が減少している。また、観光客については、大型バス利用の団体客の入込はあるが、個人客が減少しており、駐車場の狭い店舗では影響が生じている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回った月であった。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・8月は天候が良くなかったため、来客数が伸び悩んだ。夏物家電の売上が落ち込み、盆需要も例年ほどの売上ではなかった。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の販売が落ち着き、受注量に一服感がある。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果がまだあまりみられない。先行きも不安である。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・様々なイベント施策を展開しているが、来場者数が前年と変わらない。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・引き続き石油製品の価格が安定していることから、特に変化がみられない。
	高級レストラン（経営者）	単価の動き	・とにかく様々な物の価格が値上がりしており、利益率がどんどん下がっている。人件費も高騰しており、景気が上向き要素が1つも見当たらない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月の売上は前年を若干下回った。地元客はレジャー費がかさんだのか、価格引下げを告知した割に来客数が伸びなかった。現在、繁盛している飲食店は、低価格店、冊子掲示でのランチ割引サービスを行っている店舗、メニューだけでも外国語対応を告知している店舗だけである。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ピークシーズンを迎えた観光は好調に推移している。また、陸上やラグビーなどのスポーツ合宿も増加傾向にある。全体的に8月は人の動きが活発であるが、前年に比べて航空機の供給座席数が減っていることから、大きな伸びにはつながっていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年8月はお盆休みの影響でタクシーの利用客が減る月であり、今年も同様の状況がみられた。タクシー1台当たりの売上は前年並みであったが、乗務員不足により車の稼働率が落ちており、会社の売上は前年を3%下回った。
	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係での利用が順調であったが、観光客の利用が伸び悩み、全体的には変わらない状況であった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・宿泊施設の稼働率が高いようであるが、レンタカーを利用する観光客が多く、かなりの需要をレンタカーに取られている。

	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べて変化がみられない。今の時期は本来繁忙期のはずだが、今年4月以降、売上が前年を下回る状況が続くなど、全体的な落ち込みに変化がみられず、厳しい状況にある。前々年との比較でも2～3%の減少となっている。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・来客数は微増したものの、販売量に大きな変化がみられなかった。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数はここ3か月ほとんど変わらない。ただ、8月は店販品の売上がやや良く、全体の売上を押し上げた結果、前月の売上を上回った。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・最近では売上が増えても、景気が良くなっていると感じられない。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株式市場がこう着状態にあるためか、消費が今一つである。住宅建築も頭打ちになってきている。	
	百貨店（役員）	販売量の動き	・来客数が減少している。	
	百貨店（営業販売担当）	それ以外	・来客数、買上客数はプラスとなったが、食品売場や催事場を中心とした買い回りとなっており、衣料品や雑貨関係が苦戦している。特に8月に入ってから低温がセール商材の動きに悪影響を及ぼしている。	
	スーパー（役員）	それ以外	・8月は近年にない雨と低温の日が続いたことで、アイス、飲料、乾めんなどの夏物商材の動きが悪かった。夏物商材の売上は前年の半分以上であった。	
	コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価が下がり始めており、8月は売上が前年を下回った。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前月までは順調に来客数が伸びていたが、8月に入り客足が大きく鈍っており、夏のバーゲン品、秋の新作共に稼働が悪く、厳しい状況が続いている。	
	その他専門店【医薬品】（経営者）	販売量の動き	・客に対して商材の必要不可欠な価値づくりを提案していかないと、購買まで結び付かない状況にある。衝動的な購買が明らかに減少してきている。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・以前は売上がやや伸びつつあったが、最近では来客数の減少傾向がみられるようになってきている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・観光客の入込はあるものの、業種により明暗が分かれている。タクシー業界は需要の芳しくない状況にある。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・人口減少が進んでいる地域では、同業者も含めて売上が減少しているようであり、人口減少の影響がじわじわと感じられる。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春の料金プラン改正で当社の競争力が高まったとみていたが、都市圏を中心に競合他社への流出に歯止めがかからず、景気はやや悪くなっている。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・8月は繁忙期で、例年、利用乗降客数が最も多くなる月であるが、今年は天候不良が続いたことで利用乗降客数が激減した。8月26日時点の利用乗降客数は前年比で76.3%、前々年比で84.3%であった。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・来客数はあまり変わらないが、客の予算が少し減ってきており、高額な物件の成約率が低くなってきている。	
	x	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・国内旅行客の予約状況が悪い。個人客、団体客共に予約が低調である。
企業 動向 関連	建設業（従業員）	競争相手の様子	・今秋着工予定の10億円程度の建築工事の見積引き合いに対して、担当職員不在を理由とした大手建設業者の辞退が続出している。ただ、裏を返せば建築業界は活況を呈しているとみることができる。	
(北海道)	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・天候に恵まれたこともあり、完工高が順調に積み上がっている。受注量、完工高とも、すでに今年度の事業計画を達成する見通しが立っている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・節約志向は根強いものの、買換え需要で家電、自動車販売が伸びているなど、個人消費は底堅さを増している。外国人観光客による消費と公共投資も好調を維持している。道内景気は緩やかな回復が続いており、3か月前と比べてやや良くなっている。	
	その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年の台風上陸による災害復旧関連工事の発注が多く、建設業界は多忙である。川下である建機レンタル業界も多忙であり、特に現場のレンタルハウスの不足が続いている。	
	食品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月の販売量は前年比マイナス6%であり、3か月前と変わらなかったため、景気は変わらない。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・百貨店などの小売業での業績が低調である。構造的な問題に加えて、最近の天候不順が影響している。	

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・北海道からの国内移出量が増えてこない状況が続いている。またドライバー不足も依然として続いており、苦戦している。
	司法書士	取引先の様子	・現在の地方都市は人口が減少している傾向にあり、一部の地域の観光関連産業や食関連産業を除けば景気は停滞している。極端な伸びもみられないが、落ち込みもみられない状況にあり、不動産取引や建物の建築関連においても際立った動きはみられず、伸び悩みの傾向にある。
	司法書士	取引先の様子	・本州の長雨などによる食品の価格上昇などもあり、景気回復の実感には乏しいが、不動産の売買などに極端な落ち込みはみられない。住宅の新築件数も横ばいで推移している。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・企業の慎重な姿勢が継続している。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は引き続き前年を上回って推移しているが、伸び率が鈍化してきている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量については、前年と比べて大きな変化もみられず、ほぼ横ばいで推移しており、加工量の見込みが立っているが、工期遅れなどで仕事の時期がずれ込んできている。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して売上が減少している。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して、建物の新築工事、改築工事、土地の売買が少ない。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・周りの企業から受注価格が折り合わず失注するケースが増えているとの話を聞く。
	x	-	-
雇用関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材が他社へ転職するなど、企業における人材不足感がますます強くなっている。業績が好調であるにもかかわらず、人材の採用ができないため、業務が滞っている企業もみられる。こうした企業では業務体制を見直すなどの工夫を行っているようだが、人手不足の解消には至っていない。また、新規事業を起こそうにも、人材が採用できず、業績拡大のチャンスを逃している企業もみられる。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比較して求人広告件数が微増している。正社員の雇用も増えてきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・住宅関連業界での動きがやや活発になってきている。また、観光客の入込が順調に推移していることで、飲食店を始めとするサービス業の業況も上向ってきている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・企業の求人意欲は強いが、人材不足の影響で求人への応募数が少なく、人材確保に苦慮している。
	求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子	・アルバイト、パートの求人が前年並みとなっている一方で、正社員の求人の増加が目立つようになってきている。アルバイトを採用しづらくなってきていることで、小売や飲食などでの正社員求人も増えてきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が5年9か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が6か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.02倍と7年5か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年や3か月前と比較して求人数に大きな変化はみられない。ただ、建設土木に関連する職種では、求職者数が減少している一方で求人数が増加しており、人手不足感がより強まっている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・人手不足感はあるものの、人口減少が進んでいることから、労働市場は多少の変動があってもタイトに推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率は1.01倍と引き続き高い水準で推移しており、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。
	*	*	*
	x	-	-